

|      | 課題分析  | 授業改善策   |
|------|---|---|
| 国語   | 授業では授業者の意図に沿って真面目に参加しているが、提出物や挙手・発言などの様子から、主体的に学習に取り組もうとする姿勢や粘り強く取り組もうとする学習習慣の確立が課題であると考えられる。         | 自分の考えをすすんで発表しようとするために生徒の関心の高い話題やイメージをつかみやすいテーマを盛り込んだり、生徒のレディネスに合ったスモールステップ型の課題を継続させたりすることで、学習の見通しをもちながら粘り強く取り組もうとする素養を育てていく。      |
| 社会   | 授業中の反応に対して、知識・技能の定着度に大きな差が生じている。資料を活用する問題に直面すると思考停止する生徒がいる。   | 思考力、表現力等を高める取り組みを行える視覚的な教材で内容理解する時間を増やす。また、資料活用についてグループワークを活用し、協力して読み取らせていく。  |
| 数学   | 知識・技能の観点における定着度に個人差が見られる。演習量が不足していることが原因だと考える。また、思考・判断・表現の観点においても粘り強く考えていく姿勢に課題を感じる。                  | 技能を定着させていくために学習内容をスモールステップ化して進める。また、定期的に演習時間を設け、定着を図る。定着度を確認する小テストを行い、適切な対策を考えながら進めていく。   |
| 理科   | 個人差はあるものの基礎的な知識は定着してきている。一方、学習内容をもとに考えることで新たな発見をし、自らの知識としていくことや人に伝わるように表現することに課題がみられる。                | 学習内容のつながりや、学習内容と身のまわりの事物・現象との関連を例示することで興味・関心を高める。その上で、他にどのようなつながりがあるかを考えさせることで自ら考える力をつけさせる。また、考えた内容にフィードバックを行うことで、表現方法についても高めていく。 |
| 音楽   | 歌唱の基本的な技能が身につけており、真面目に歌う生徒がいる。意欲的に歌おうとする生徒が埋もれている。鑑賞では、その音楽の背景との関わりを考える等、音楽を深く掘り下げて考えることに課題であると考えられる。 | 生徒が自信をもって歌唱できるよう、練習時間を確保したり、声掛けをしたりしていく。鑑賞では、ICTを活用して資料を確認し、ポイントを絞った指導を行うことで、音楽を深く掘り下げて考えることができるようにしていく。                          |
| 美術   | 作品制作、座学ともに意欲的に取り組んでいる様子だが、アイデア出しの際に発想が偏ってしまうことや、造型的な視点をもって作品を鑑賞していくことに関しては課題が見られる。                    | 作品制作の中で体験的に習得する造型的な知識・技能に関して、生徒が意図的に形や色彩、材料などを活用するとともに、教師がワークシートなどを工夫し、特性を理解できるような価値付けを指導していく。                                    |
| 保健体育 | 基本的な技能に個人差はあるが、ある程度の技能は身に付いている。さらなる技能の向上とともに、課題発見能力・課題解決能力を育成していきたい。                                  | 話し合い活動を多く取り入れると共に、ICT 機器を効果的に活用し、技能のみならず、運動構造に対する理解を深めていきたい。また、自身の課題を共有し、解決方法を話し合うことで課題解決能力を育成し、技能を向上させていきたい。                     |
| 技術   | 実習や実験・製作に関しては、意欲的に取り組む生徒が多い。(技術)  | 基礎的な知識と技術を定着させるために、実践的・体験的な学習活動を多く取り入れる。ワークシートを活用し、   |

|                      |  |   |
|----------------------|--|---|
| <p>・<br/>家<br/>庭</p> | <p>被服製作に意欲的に取り組む生徒が多いが、日常生活の中でもものを作る体験が乏しいなどの理由から知識と技能に個人差がある。<br/>(家庭)</p>            | <p>定期的に作業や観察を行う。(技術)<br/>製作等が苦手な生徒には、グループ内で教え合うように指導する。基礎的な知識や技能を習得させ、製作に関してはある程度の道筋を示す。その後は、自ら考え、グループで協力して製作をすすめるようにする。(家庭)</p>                    |
| <p>外<br/>国<br/>語</p> | <p>一つ一つの文構造は理解できていても、複合的な問題になると混乱してしまう生徒がいる。また、「話すこと」や「書くこと」において表現する力を伸ばしていく必要がある。</p> | <p>文構造の導入時には言語活動を取り入れ、定着を図る。また複数の文構造が混在した英文を読ませたり、書かせたりする機会を増やしていく。ALT との対話練習を学期に複数回取り入れ、話すことへの苦手意識をなくしていく。対話活動を頻繁に取り入れ、対話的な学びの実現に向けた授業を実践していく。</p> |